



月刊 おかじょうき

<http://www.okajoki.com/>

誌上句会「0番線」

徳長 怜・むさし 選

2022

4



題「短」	徳長 怜 選	4
	むさし 選	6
無人駅鑑賞「カンテラ」	むさし	8
会員雑詠集「無人駅」		11
■例月句会結果■		
おかげようき川柳社	3月ステイホーム句会	23
川柳吟行会「ぼ」		27
十和田たてがみ川柳会	2月句会報	31
Infomation		33～

0番線

題「短」徳長 伶 選

【佳作】

毒針は短い方が効くんだよ
 自分史はショートショートな亀の足
 何時の間に短かくなつた喪の帯よ
 歳月のところどころの短い芽
 短めの足で昭和を駆けて来た
 棧橋の短いほうを春とする
 言い訳に動くのはよせ短針よ
 16分音符うかべてユーフラテス
 手短に言いますヤンバルクイナです
 仕方なく男みじかくなりました
 短針を失くして森は静かなる
 コンビニのせいだ短い虎の爪
 赤のチロルチョコは短命かもしれぬ
 世界一短気な国のパンを焼く
 セロ弾きのゴーシュのうたた寝だとしても
 三文字の返事ばかりの雪だるま

青森県 笹田かなえ
 愛媛県 山内房子
 青森県 坂本清乃
 愛知県 安藤なみ
 秋田県 田久保亜蘭
 静岡県 米山明日歌
 富山県 達 毘 古
 秋田県 佐藤春子
 大阪府 宮井いずみ
 神奈川県 芝岡かんえもん
 京都府 木口雅裕
 愛媛県 吉原美佐
 愛媛県 松木慎吾
 高知県 大野美恵
 青森県 奈良一艘
 青森県 S i n

みじん切りに紛れラビオリに潜む

島根県 石橋芳山

深爪やちから入らぬ月の位置

秋田県 佐藤春子

停戦の Pasta は折つて茹でなさい

青森県 守田啓子

手短に言うとは水平線になる

愛媛県 郷田みや

【秀逸】

二月から速達の来る洗面所

福井県 みつ木もも花

見せられるカットをされたものばかり

奈良県 ひとり静

サララップ短すぎたね鉤括弧

愛媛県 大内せつ子

【特選】

息継ぎの短い人と合わす息

青森県 笹田かなえ

【特選】ひとを言うのに「息継ぎの短い人」とは実におもしろい視点だ。多方向に『短』を派生させる。まずは人生の息継ぎへ秒を違えずぶかりと浮上してみせる。

評選

【秀1】寸足らずのラップから、はみ出た言葉たちは鉤括弧のなかで萎びてゆくのだろうか、それとも。終助詞「ね」の味わいは特記したい。

徳長 伶

【秀2】意図を持ったカリカチュア的トリミングがそこから差し出され、もはや象の耳が餃子であると示されても驚かないのだ。

【秀3】洗面所の鏡に映しだされたのは二十九日用の顔で、慌てた二月から届いたのは「その顔は使用不可」という速達。

0番線

選「短」むさし題

【佳作】

- 美人ではなかったらしいまだ生きて
短すぎ結ばなかつた赤い糸
絵文字だけメールをくれる二年生
かまつてと短距離ミサイル打つてくる
四コマで足りる芝居を繰り返す
手短になんてむりですお母さん
聞かないでショートカットで通すわけ
自分史はショートショートな亀の足
言い訳に動くのはよせ短針よ
停戦のパスは折つて茹でなさい
短刀を忍ばせてます触れないで
いいじゃない破れかぶれとにわか雨
手短に言いますヤンバルクイナです
遺言状ひと言「ん」と書いておく
短めの手紙にしてね儼びるから
ショートコントのように終った副反応
- 静岡県 米山明日歌
青森県 村上あつこ
山口県 上村夢香
愛媛県 松木慎吾
秋田県 斎藤泰子
青森県 稲見則彦
青森県 吉田吹喜
愛媛県 山内房子
富山県 達 毘古
青森県 守田啓子
青森県 まみどり
青森県 辻井洋子
大阪府 宮井いずみ
愛媛県 田中なお
青森県 ひとは
青森県 ひとは

- 自動ドア開くまであんた待てないの
ちゃんと生きてるじかんでみじかいね
ふきのとう短所に触れて口ごもる
すぐだから川のほとりで待つてね
- 愛媛県 青野 舞
青森県 田中 薫
高知県 小野善江
青森県 滋野さち

【秀逸】

- ぼそつと一言「カタツムリ」
何時の間に短かくなつた喪の帯よ
潜伏期間短い方がわたしです
- 青森県 鳴海賢治
青森県 坂本清乃
大阪府 岸井ふさゑ

【特選】

- みずいろのクレヨンだけが短いの
- 福岡県 柴田美都

「みずいろ」を辞書で引いてみた。
広辞苑は「薄い藍色。あざぎ。」
とそつけない。ウィキペディアに
は「水色は澄んだ水の色を表す、

評選

淡い緑みの青色（以下省略）と
あり、色名がわかる辞典には「JS
の色彩規格ではうすい緑みの青と
している。一般に、晴れた空の色

むさし

が映し出された水の色ような、ご
く薄い青のこと」と出ている。
特選の作者は「みずいろのクレ
ヨン」で何を描いたのだろう。

【0番線「短」：投句者60名】佐藤春子・達毘古・稲見則彦・中川喜代子・川西則子・田中なお・米山明日歌・青野 舞・守田啓子・大内せつ子・大谷のり子・田久保亜蘭・上村夢香・旅男・松木慎吾・みつ木もも花・日下部敦世・宮井いずみ・須藤しんのすけ・四ツ屋いずみ・鳴海賢治・熊谷冬鼓・吉田吹喜・土田雅子・岩根彰子・笹田かなえ・もりともみち・柴

土居新山・安藤なみ・岸井ふさゑ・柳本恵子・坂本清乃・村上あつこ・辻井洋子・吉松澄子・高木まあこ・芝岡かんえもん・木口雅裕・渡邊こあき・田中 薫・吉原美佐・山内房子・小野善江・石橋芳山・大野美恵・まきこ・斎藤泰子・葉 閑女・田美都・青砥和子・一帆・郷田みや・まみどり・滋野さち・ひとは・三浦蒼鬼・城後朱美・Sin・ひとり静・奈良一艘

カンテラ

おぼろ

オミクロン株だとかBA2だとか、そんなものが私のすぐ近くにもいるような気がします。

そんな中、ロシアがウクライナへ戦争を仕掛けるというとんでもない行動に出ました。

コロナウイルスの発生は人為的に行われたものではないと思われませんが、戦争は全くの人為です。

こんな愚行をどうして世界は止められなかったのでしょうか。

この世が薄ら寒く感じられるこの頃です。
せめて川柳界だけでもあたたかく力強くありたい。

それでは、カンテラに明かりを灯しましょう。

A群

揚げ玉と薬味のネギに囲まれて

岩根彰子

FFの後輪にあるケセラセラ

瀧尻善英

雪ダルマ残して足跡融けて行く

坂本清乃

吐く砂ももう無くなつた倦怠期

斎藤泰子

買い手は不明で売り手は知らんぶり

城後朱美

いつからか弱気になつた足の向き

まみどり

飲み込んだ不満出口を探してる

村上あつこ

サルサからサンバにかわる春の雨

柳本恵子

どうしたらそんなに春でいられるの

芝岡かんきもん

だぶだぶのぶかぶか 光ってすごい

吉田吹喜

添え物のフライドポテトだったのに

渡邊こあき

エンターキー叩いて海に会いに行く

熊谷冬鼓

あなたの狡さわたしの愚かミルフィーユ きささぎ彼句吾

捨てたはずの昨日を抱いたルンバ基地 土田雅子

土田雅子さん、私は「ルンバ基地」を知りませんでした。
ラテン音楽の「ルンバ」へ頭が行ってしまつて「何でルンバに基地があるんだ？」と思ひました。ネットを検索して、この「ルンバ」は掃除機の名前だということがよく判りました。「ルンバ基地」は赤外線ルンバ本体に場所を知らせているんだってね。優秀な「ルンバ基地」は雅子さんが捨てた「昨日」もデータとして保存しているんですね…。

B群

この国をバカ息子だと想つ冬 達毘古

見ないふりすると筋トレしてる月 夏草ふぶき

地吹雪が吹き荒れている ほうれい線 ひとは

正しいと信じて手首まで入れる ひとり静

リサイクル仕様のマーク背にペタリ まきこ

生きている自体誰かの恩返し 三浦蒼鬼

米山明日歌さん、「プロッコリーな人」って何だか素敵ですね。「プロッコリー」と言えば、蕾が盛り上がつて固く締まつた野菜としか思つていなかったのですが、アメリカでは「プロッコリー」を幸せの象徴として新郎が独身男性たちに向かってトスし、無事にキヤッチできた人が次の花婿になるというプロッコリートスというものが行われるそうです。「冬の夜」だけの人じゃもったいなくない？

C群

煎餅を割るとタクラマカンから月 小野五郎

さんずいに差し込む中指の角度 須藤しのすけ

ハチマキを腰に巻いてはいけません 奈良一艘

巻き舌のまま墜ちてゆく非常ベル 宮井いずみ

万愚節一つ覚えの燃料棒 葉 閑女
ささくれに二度目の月が引つかかる 石橋芳山
捕まえたのは晩冬のザラザラ 守田啓子
冬の夜プロッコリーな人という 米山明日歌

小野五郎さん、「煎餅」から「タクラマカン」へイメー
ジを飛ばすって凄いですね。「タクラマカン」という語
感もおもしろいけど、「タクラマカン」で中国最大の砂
漠なんだね。つまり、「月の沙漠」ってこと。とこ
ろで、童謡「月の沙漠」は「沙漠」じゃなく「沙漠」で、
千葉県御宿海岸がモチーフらしいですね。御宿海岸に
はラクダに乗った王子と姫の像があります。あ、関係な
いか(汗)

須藤しのすけさん、「さんずい」って「三水」で、「海」
や「波」などの漢字の偏のことですよ。水や液体に関
する字に付く偏なので、「中指」で水の流れを変えて違う
意味を持たせるってことかなと思いました。広辞苑を引
いたら「三水」には「酒(の隠語)」という意味もありま
したがどうやら関係ないようです。「中指の角度」って何
か特別な意味が込められているのかもしれないね。

奈良一艘さん、「ハチマキ」って「ねじり鉢巻」の「鉢
巻」のことですよ。広辞苑を引くと「①頭部を布や手
拭などで巻くこと。また、その巻く布。」と出てきます。
ということは、この句が言っているように「腰に巻く」

ものではありません。「腰に巻く」のは関取たちが使う
褌の一種「まわし」というものです。あれ？一艘さんは
そんなことは言っていないようですね(汗) お尻にサン
グラスをしてはいけません、そんなことかな…(汗)

宮井いずみさんは、「巻き舌」の「非常ベル」という
ものを御存じなですね。「巻き舌」は、広辞苑に「舌
の先を巻くようにして強く、また早口に言う口調」とあつ
て、更に「酒に酔った時、あるいは江戸っ子のもの言い」
と書かれています。ということは、この「非常ベル」は
酒に酔っているか江戸っ子であるかのどっちかというこ
とになります(汗)とところで「墜ちる」ですが、これま
た広辞苑によりますと、「物事がある終局にまで達する」
こと、「①精進が終わる。②問いつめられて自白する。
③城が攻めとられる。陥る。④くどかれて意に従う。な
びく。⑤けもの・鳥・魚などが死ぬ。⑥柔道で、気絶する。」
とあります。この句の「非常ベル」はくどかれていたのか、
それとも柔道で絞め技を決められていたのか…。どっち
も違うだろうな。ところで今の世の中、毎日「非常ベル」
が鳴っているようですが、もしかしたらそっちかな？

おかじょうき川柳社会員雑詠集

無人駅

★無人駅3月月間賞

大げさに笑って寒を切り抜ける

斎藤 泰子

柳本恵子【やなぎもとけいこ・奈良県奈良市】

猫ふんじやつたからはじまる僕の春
別れ際に渡す粗削りの春
タクト振る 春には春の振り方で
今はアレですがチューリップ咲きました
サルサからサンバにかわる春の雨

先月号のお気に入り
困ったな想定外のバスが来る
想定外のバスって、いいなあ。
渡邊こあき

葉閑女【ようかんによ・青森県青森市】

万愚節一つ覚えの燃料棒
ドレミファの天辺に置く虫メガネ
お酒にも投手にもなる山崎クン
凶鑑にはない花ばかり気にかかる
メタンエタンプロパンボタン オミクロン

先月号のお気に入り
雨の音だけであなたができあがる
米山明日歌
「雨の夜あなたは帰る」なんて歌を思い出しました。

吉見恵子【よしみけいこ・青森県青森市】

臆病な窓をゆさぶる雪嵐
水槽の魚となれり外は雪
生きることに意味など要らぬ桃飾る
玉葱ニンニク邪鬼の入らぬよう吊るす
春まぢか雲の自在と戯れる

先月号のお気に入り

四ツ屋いずみ【よつやいずみ・北海道札幌市】

うかうかに丸め込まれてる令月
発芽促すカシミヤ混のベスト
「元氣かい」にしん漬けからリフレイン
歯車の油のほこり今5ミリ
耳鳴りが止んでる今のうちよ それ！

先月号のお気に入り
まねんだねそたらだごでのたばれば
「ダメだよ そんなところで寝ていたら」という意味で
あっていますか？
奈良一艘

吉田州花【よしだしゅうか・青森県青森市】

過去帳の一月ばかり混んでいる
立春を待てずに果てるこの家の
新しく殿に書く弟よ
大雪の令和四年の語り種
残された側で大雪片づける

先月号のお気に入り
いつかなど待っていられぬグレイヘア
先のお約束などできませぬ です
渡邊こあき

吉田吹喜【よしだふぶき・青森県弘前市】

3000個の星を数える また白朮
彼方からエールをくれるオリオン座
北極星なんていつても目立たない
一日に一回転のヒトなのよ
だぶだぶのぶかぶか 光ってすごい

先月号のお気に入り
ぽおーんと冬木立に挟まったまま
想像してみたら大変に面白かったです
四ツ屋いずみ

米山明日歌【よねやまあすか・静岡県長泉町】

冬の夜ブロッコリーな人という
二人してかっぱえびせん止まらない
踵からハトのでてくる夜になり
笑いあう菜の花色の夢の中
約束は干し椎茸が戻るまで

先月号のお気に入り
誠実な感じに仕立て直す鼻
誠実な感じ。というのがいいです。直せるなら私もお願いしたいです。
吉田吹喜

渡邊こあき【わたなべこあき・青森県青森市】

ミカン剥く誰かとしたい無駄話
干しイモの甘さあの日のアドバイス
雪灯りバナナチップス星になる
添え物のフライドポテトだったのに
手放すと決めてリングゴのまるかじり

先月号のお気に入り
誰かしら手首に積るなごり雪
ふと想う人が増えました。
守田啓子

安藤なみ

【あんどなみ・愛知県瀬戸市】

山盛りの山　ひと口お茶をのむ
さしあたり木綿の糸で閉じておく
チケツトを見せて入った繁華街
海火事の兆し鯨が茹であがる
黄金めくトンプクトウの中華飯

先月号のお気に入り

雪女になるかマッチ売りするか　まみどり
マッチ売りにしてください。買います、買います。

岩根彰子

【いわねあきこ・京都府京都市】

血縁を結ぶ簡易式便座
クロワッサン意味はないけど感じます
揚げ玉と薬味のネギに囲まれて
必勝カップラーメンジャブが痒い
朧月ガーゼタオルで拭うてあげる

先月号のお気に入り

石橋芳山

【いしばしほうざん・島根県松江市】

まだ冬の重ね着なんかして弥生
キンキンに寒波襲来キンキンに
口元のニヒルに西高東低
ささくれに二度目の月が引つかかる
2番線通過していく流れ星

先月号のお気に入り

上村夢香

【うえむらゆめか・山口県岩国市】

ガソリンの補助わたしにもあるかしら
シミのようなSNSが命取り
金メダル個人無視する大国は
ほしいものつついネット手が伸びる
受験勉強時間あり過ぎつい余所見

先月号のお気に入り

小野五郎

【おのごろう・青森県青森市】

煎餅を割るとタクラマカンから月
ダイヤの乱れ便器が詰まっている
美少女が見ている宿命の砂漠
花火が終わったら退室して下さい
頼んでもないのに桜が吹雪いてる

先月号のお気に入り

熊谷冬鼓

【くまがいとご・青森県青森市】

エンターキー叩いて海に会いに行く
許すとは春の林檎のやわらかさ
倒置法煮ところがしの里芋は
俎板の傷滑らかに開眼する
名のみ春です　近親者のみにて

先月号のお気に入り

富士壺のびっしり付いたさようなら　米山明日歌
富士壺がびっしりとは。真つさらに戻るのもアリですね。

きさらぎ彼句吾

【きさらぎあきあ・青森県弘前市】

胸中に火在り眼裏に花在り
あなたの狡さわたしの愚かミルフィーユ
修羅通すうなじの水を波立たせ
生きて行くつてチャップリンのドタ靴
通りゃんせどう生きたつて彼岸花

先月号のお気に入り

幸せを種のまんまで子に渡す　斎藤泰子
その種をうまく咲かせられなかったなあ…ごめんなさい。

斎藤泰子

【さいとうたいこ・秋田県大館市】

着膨れて墮落が進む箱の中
好き勝手はじまる春の音合わせ
ラップして清くなるのを待っている
吐く砂ももう無くなった倦怠期
木っ端微塵の誠心誠意

先月号のお気に入り

平行線わたしと同じ匂いする　一帆
こういふふうに気付いてしまうところが好きだなあ〜ど
うぞお疲れになりませんように、ねっ！

坂本清乃

「さかもとぎよの・青森県蓬田村」

朝晩の血圧計が皴ふやす
雪ダルマ残して足跡融けて行く
家計簿が渴いてもやしを呼んでいる
氷柱ポタリ私も歌う春のうた
豆苗の発芽まだかと鍋が問う

先月号の
お気に入り

笹田隆志

「ささただかし・青森県青森市」

アベノマスク競売にかけすつけらかん
仏法僧を信じられないコノハズク
コロナが厭で地下室に棲むサングラス
「気候変動だよ」聞こえてるかい屋根雪さん
労働過重で演技をやめたイルカショー

先月号の
お気に入り

熊スプレンダーするか高速ナンチャクか 宮井いずみ
きつと紅いマントを羽織ってかまえているのでしょう。

Sin

「しん・青森県外ヶ浜町」

（あの国大丈夫かな…）「レジ袋、要りますか？」
トーン トーン トトン 死んだ トトン
ファミコンにはリセットボタンあるのに
みんな歪で 歪に気づかない
ソメイヨシノがラスボス感を出してくる

先月号の
お気に入り

底辺を変えなきゃどうにもならんがな 土田雅子
底辺なんてグッチャグッチャにしたつたらええねん。知らんけど。

須藤しんのすけ

「すとうしんのすけ・青森県弘前市」

ある国を紙幣の横顔に残す
日に三度猫と話をする時間
さんずいに差し込む中指の角度
付けてた方がきつとエロいブラジャー
あたたかい光を使う時間です

先月号の
お気に入り

私にピンクを足して春にする 柳本恵子
「私」「ピンク」「足す」「春」。何でもない言葉がお互い邪魔することなくリズムに乗って気持ちが良い。春はこーでなくつちゃ！

芝岡かんえもん

「しばおかかんえもん・神奈川県横浜市」

汚れた白いズツクの独り言
どうしたらそんなに春でいられるの
ホーホケキヨなにか嬉しくなってきた
ねえあなたわたしの海はふかいわよ
しあわせの甘みを持つているあなた

先月号の
お気に入り

何度洗っても取れぬ母のヌルヌル 村上あつこ
これはとれませぬね。つきあいましょう！

城後朱美

「じょうごあけみ・福岡県八女市」

空き家解体狸にあつた本籍地
買い手は不明で売り手は知らんぷり
切られた木は私抜かれた竹は母
夕焼けが見える空き地のままがよい
お隣の空き地へ保健所が入る

先月号の
お気に入り

何もせぬうちにまた来た金曜日 村井規子
あつという間に金曜日！元気ですごせる幸せ。

瀧尻善英

「たきじりよしひで・青森県八戸市」

デーモンの笑い天使の仮面つけ
選ばれたワタシア あなたの当たりクジ
強面がニコツとすればホツとする
FFの後輪にあるケセラセラ
傍に居てくれるだけでも耐えられる

先月号の
お気に入り

はじめまして北山崎の波しぶき 守田啓子
はじめに陸海岸の北山崎に行ったんですね。荒々しく打ちつける波を間近に体感できる日本の侵食海岸といえるでしょう。「はじめまして」…いいですね。

田久保亜蘭

「たくぼあらん・秋田県五城目町」

ピノキオが担げるような軽い嘘
固面に揚げたての空手部を貸す
皮剥いで磨いてみたらほんのヒト
アキレス腱切れた義足の勘違い
東京のビル真っ直ぐに立っていない

先月号の
お気に入り

達毘古【たつひこ・富山県高岡市】

スサノオと「おかあちゃん」と哭きわめく
うたた寝でサマーデイとなり白目むく
龍はまだ火を吐かないなブルーだな
待つ顔の家康ばかり日は沈む
この国をバカ息子だと想う冬

先月号のお気に入り
抹消線だらけになった住所録
むさし
同じです……

田中 薫【たなかかおる・青森県弘前市】

神木が邪気を吸って吸って吸って
ヒエログリフお静かに今そこに居るわ
マックカップこぼれ落ちたしかめつ面
風呂上がりダンサーになるいいじゃない
岩木山という父かすみ草がわたし

先月号のお気に入り
それってさのりたま的裏切りね
ひとは
のりたまがあれば何杯でも食べちゃう

土田雅子【つちだまさこ・青森県青森市】

孫三号抱いてあたしのテレマーク
阿鼻叫喚するたびヒトになってゆく
穢れない寢息に支配されている
三歳児神話椿も咲きました
捨てたはずの昨日を抱いたルンバ基地

先月号のお気に入り
ごめんねと言われてとれた指の棘
村上てる
そのひとことが欲しかった。

夏草ふぶき【なつくさふぶき・青森県青森市】

足音を消して夜中の影探す
一時停止 いびつな夜が慌てだす
見ないふりすると筋トレしてる月
暗闇を畳み押し入れにしまっ
真夜中に見つけた明かりを塗りつぶす

先月号のお気に入り
待ち受けにオーケストラがやってきた
葉 閑女
賑やかで楽しいですね。

旅男【たびお・青森県五所川原市】

只今蓋を閉めております芽鱗根
眉雪のハハ感情武装のよよよ
終いにはえにしもクイズハ誰ですか？
こんな筈じゃなかった積立時間
モーイイカイ蓋は開かないマーダダヨ

先月号のお気に入り
逢いたさは塩でいただくのがベスト
Sin
過剰な期待は禁物、塩の甘さにしておきます。

辻井洋子【つじいようこ・青森県青森市】

風邪引いた昭和のわたしバナナ買う
転けた日は怯まぬようにタンゴ聞く
さめた愛チンとレンジが答え出す
日溜まりをメールに添える白い冬
日記書く○×△取り混ぜて

先月号のお気に入り
何度洗っても取れぬ母のヌルヌル
村上あつこ
私、洗わずにそのままです。

奈良一艘【ならいつそう・青森県弘前市】

ハチマキを腰に巻いてはいけません
「べ」の音を半音上げて goodbye
選手宣誓をしてこむら返り始まる
侵攻の弾は込めたかひもじいか
スノームーンの吐息は淫らに錆びる

先月号のお気に入り
闇知った象の鼻からスワヒリ語
米山明日歌
*因みにスワヒリ語でアイラブユーは nakupenda と言っ
そうです(笑)

鳴海賢治【なるみけんじ・青森県つがる市】

雪やんで庭の千草よおめでとう
この塵紙使用されてはおりません
石橋を叩いても進路きまらず
誰言うかふりがなすればみなごろし
夜空の星に言いました「濡れ手です」

先月号のお気に入り
カメムシの臭いをさせた日記帳
米山明日歌
彼の虫には悩まされています。

ひとは【ひとは・青森県黒石市】

どの辺が瘦せたかなんて鍋の蓋
だからって二の腕だけは健在で
地吹雪が吹き荒れている ほうれい線
「>カット着信拒否がまだ続く
美白効果だろうか失言が増える

先月号のお気に入り
咲く花のことだけ書いておく日記 米山明日歌
日記だから書けない事もありますよね。私も今度からお
花の事を書こうかな

ひとり静【ひとりしずか・奈良県大和郡山市】

さらさらと流されている慣れてくる
それもこれも箱の中のカブトムシ
正しいと信じて手首まで入れる
数人の手に握られてる世界
ひっそりと野菊の墓の草の丈

先月号のお気に入り
ポケットに入りきらないカタロニア 小野五郎
昔から反骨精神が半端じゃないしね。

三浦蒼鬼【みうらそうき・青森県黒石市】

激辛のどや顔に貼る湿布薬
生きている自体誰かの恩返し
炭酸抜けたコーラが指定席にある
老けた顔鏡で確かめて次へ
笑顔って寂しさの裏側である

先月号のお気に入り
逢いたさは塩でいただくのがベスト Sin
塩分が効いた関係って少し懂れますね

宮井いずみ【みやいいずみ・大阪府大阪市】

雨雲レーダー当たらないじゃん燕じゃん
裏切った訳ではなくてアサリ貝
三番街のマリーの入るケアハウス
巻き舌のまま墜ちてゆく非常ベル
オペラ座のいいえの上にまたいいえ

先月号のお気に入り
頭蓋骨ズレて止まらない失言 四ツ屋いずみ
頭蓋骨の整体を受けたら失言が止まるのでしょうか。希
望が湧いてきました。

まきこ【まきこ・青森県青森市】

ウソ泣きの間におべっか三つ言う
リサイクル仕様のマーク背にペタリ
カエルびよこ右も左も賛成派
一呼吸しろとささやく殺人鬼
雪おんなそれは私まだ何か

先月号のお気に入り
底辺を変えなきゃどうにもならんがな 土田雅子
そのとおり。でもねどうにもならないのよ。トホホです
と面白がっております。

まみどり【まみどり・青森県黒石市】

いつからか弱気になった足の向き
もろい骨スパイス二つ喝ひとつ
ギシミシと音を鳴らして崩れてく
糊付けも柔軟剤もせぬうちに
つなぎ目に欲しかったのは日照権

先月号のお気に入り
これが序曲だ靴下に穴ひとつ 小野五郎
幸せの階段なのか墜落への道か、まさしく序曲。

村井規子【むらいのりこ・青森県大鰐町】

空元気句に現れるいかんいかん
除雪車に罪ないけれどまだ夜中
五句吐きの三句辺りで過呼吸に
百低山そのうち一つ僕の夢
川柳脳スイッチ少し錆びてきた

先月号のお気に入り

村上あつこ【むらかみあつこ・青森県青森市】

夢の尻尾追いかけてまだ旅の途中
飲み込んだ不満出口を探してる
三合の酒に飲まれて自己嫌悪
次々とタッチしてねと急かされる
デジタル化ついて行けないジジとババ

先月号のお気に入り
春っららリセットボタン押しましよう 柳本恵子
早くコロナ前の春になりますように！

守田啓子【もりたけいこ・青森県三沢市】

嫌で嫌で冬を抜け出したけど 迷
来たがっている春に耳打ちをする
送料無料カートに春を5個入れて
あつたはずどこにもなくて泥棒坂
捕まえたのは晩冬のザラザラ

先月号の
お気に入り
口数が多くてカステラのざらめ
あのざらめ。ない方が好きです。
石橋芳山

むさし【むさし・青森県蓬田村】

老いぼれたかかどが春を呼んでいる
夕焼けをおまけしますという本屋
マスクの街にコロナウィルスがしゃがんでる
朝顔の蔓がからまる金曜日
列車の窓に写楽の鼻がせり上がる

酔い覚めに ふりかける

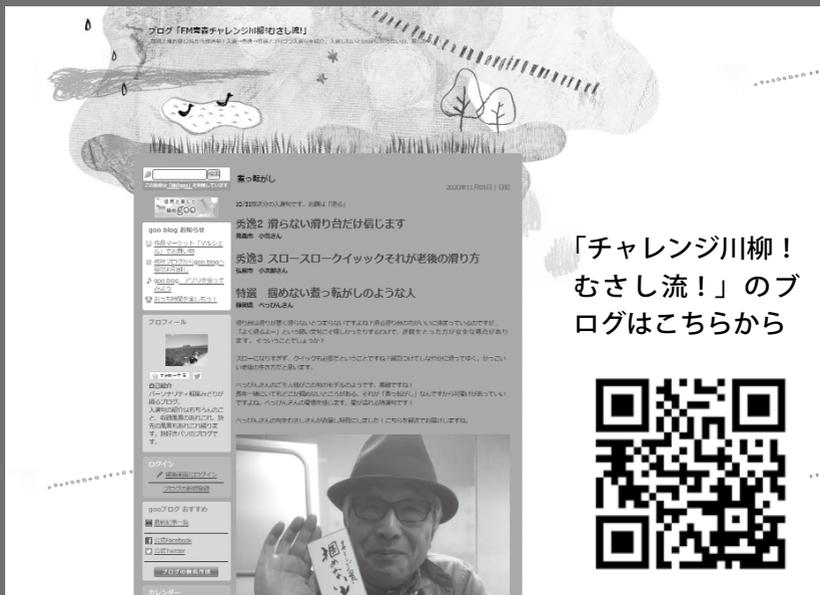


▼投句者 (34名・到着順)

安藤なみ・達毘古・旅男・柳本恵子・吉松澄子・米山明日歌・
宮井いずみ・土田雅子・岩根彰子・芝岡かんえもん・守田啓子・
郷田みや・村上あつこ・吉田吹喜・むさし・須藤しんのすけ・
三浦蒼鬼・斎藤泰子・ひとは・田中 薫・石橋芳山・奈良一艘・
真島久美子・熊谷冬鼓・村井規子・きさらぎ彼句吾・笹田隆志・
まみどり・田久保亞蘭・鳴海賢治・まきこ・葉 閑女・坂本清乃・
城後朱美

おかげさようき川柳社

3月ステイホーム誌上句会



宿題『ムード』

青森県外ヶ浜町 Sin 選

【佳作】

両足が最近第五反抗期
 ごめんなさい上手く履けない網タイツ
 なんて哀しいひとなの妻の視線
 アネモネのうつむき加減春の宵
 朝6時新宿2丁目の会話
 いち押しは村上春樹的ムード
 エマニエル夫人になれるバスタオル
 甘いムード無縁私は獣偏
 ムードだけ置いて貴方は巢に戻る
 静寂が怖くてカラスとおしやべり中
 指の隙間から漏れる月と貴方と
 寒天にもぐつていう 死にたくない
 スピードのジャック虐めてみたい夜
 白紙にはできそうもない笑い顔
 メリージェン嘘を一枚ずつ剥がす
 天辺は青いままです観覧車

村井規子
 まみどり
 達 毘 古
 土田雅子
 須藤しんのすけ
 吉松澄子
 真島久美子
 坂本清乃
 坂本清乃
 岩根彰子
 坂本清乃
 ひとは
 守田啓子
 宮井いずみ
 斎藤泰子
 三浦蒼鬼
 郷田みや

ラジオながれる 吸い殻香るなかで
 伊集院静にはしゃぐのを止められている
 開けたのはうふふふのドア あと臙
 跪く三月の海からボレロ
 米山明日歌
 土田雅子
 きさらぎ彼句吾
 守田啓子

【五客】

人偏を外して飛んでいた日だ
 はじまりは手の平の海見せられて
 反戦を書く厚紙を選っている
 すぐ脱げるように出かける春の宵
 夕焼けを袋に詰めてあげようか
 む さ し
 米山明日歌

【人位】

母さんが泣いたのは大人の時間
 旅 男

【地位】

お祝いに小指を一本たてましょう
 まみどり

【天位】

抱きしめて触れる二個目の盗聴器
 安藤なみ

【天位】「抱きしめる」という関係性と「二個目」というストーリー性から、「盗聴器」がメタファーなのかどうか、選をしていて最後まで悩んだが、ロシアによるウクライナ侵攻の時事も相まって、笑顔でハグしてくる人ですら信用できないムードの世界に生きている恐ろしさも感じてしまった。

宿題『向』

青森県八戸市 笹田かなえ選

【佳作】

新生兎向こう三軒蹴っている
 身八つ口辺りに届く向い風
 ゆうれいに誘われちゃった向こう岸
 スミレ咲きました振り向いてくれますか
 向き不向き逆立ちをしてみましようか
 真つ向勝負だなんておほほウフツ
 バカボンのパパでいいのだから
 桜並木死亡診断書の向こう
 真向かいが屠畜場から降りて来た
 振り向いてだあれもいないのに気付く
 「さー」「やー」と急かされスパーから帰る
 月落ちて来ぬかと仰向けに眠る
 日向から誰かサバ缶開ける音
 傾向と対策 死んだフリをする
 体重増加どこへ向かっているのだから
 おいレールそつちではありませんから

岩根彰子
 岩根彰子
 まみどり
 柳本恵子
 郷田みや
 まみどり
 達 毘 古
 守田啓子
 田久保亜蘭
 斎藤泰子
 葉 閑 女
 石橋芳山
 三浦蒼鬼
 斎藤泰子
 吉田吹喜
 芝岡かんえもん

一向に進まぬ虹を買う話

一向邦子の飛行機事故のこと
 吉松澄子

1, 2, 3もつともつとスイングバイ
 土田雅子

寒戻る桜はちよつとほつとする
 旅 男
 村井規子

【五客】

向う見ずだったサクマドロップスの企み
 岩根彰子

日向に貼つてある撤回の白書
 安藤なみ

お隣は他人ガラスの向こう側
 城後朱美

不向きだと思うよタラコマヨネーズ
 吉松澄子

手裏剣シュシュいつだって向かい風
 土田雅子

【人位】
 日曜の向こうは雨で浅田館
 米山明日歌

【地位】
 どつちを向いて笑っているのですか
 鳴海賢治

【天位】
 向日葵の最前列は焦っている
 米山明日歌

【人位】「向こう」がいい。「雨」と「浅田館」を言葉遊び風にしながら、「向こう」によって景色に広がり生まれた。
 【地位】書こうと思っても書けない川柳の一つだと思ふ。焦点をぼかした書き方によって、読む側の想像力がかきたてられる。
 【天位】向日葵（ひまわり）はウクライナの国花。ロシアのウクライナ侵攻に、世界のほとんどの人が暗澹たる気持ちで過ごしている。詩情と時事の融合が見事。

宿題『自由詠』

青森県蓬田村 むさし 選

【佳作】

「畑ニオル シゲ」畑から昇った
 古稀過ぎて夢の続きが霞んでる
 湖になった池から来る知らせ
 人類はどいつもこいつも変異株
 放課後の気分はバニラエッセンス
 立ち止まる記憶の中の三差路で
 背景は夕焼けがいい告白文
 ちよつと待てゴルゴ13呼んだから
 私が縮む温度は知っている
 そう言えば持つていました逆時計
 しあわせの列に並ぶと太り出す
 捨てられたマスク同士で愚痴る夜
 持つてますわたくしだけのマンホール
 猫のヒゲ切つてそれから不眠症
 泣き止むまで撫でるあの日の水平線
 咲きすぎたことを知らずに歩いてる

旅 男
 村上あつこ
 安藤なみ
 芝岡かんえもん
 吉松澄子
 柳本恵子
 吉松澄子
 ひとは
 斎藤泰子
 郷田みや
 芝岡かんえもん
 村井規子
 米山明日歌
 ひとは
 守田啓子
 まみどり

宿なしか親がないのか斑の犬
 マヨネーズの逆立ちクライマックスへ
 たった一円足りず戻ってきたアイツ
 日本で戦後生まれでありがとう

笹田隆志
 まみどり
 田久保亜蘭
 熊谷冬鼓

【五客】

文脈は変えずに海になるつもり
 去る足音ばかり 耳が冬ざれる
 三度目のワクチン済んだ砂時計
 こめかみを何度も通り過ぎた海
 ウクライナの爆煙今日は雛祭り

米山明日歌
 きさらぎ彼句吾
 熊谷冬鼓
 三浦蒼鬼
 土田雅子

【人位】

名残り雪非課税世帯だとしても

熊谷冬鼓

【地位】

戦争が始まった日のハンバーグ

斎藤泰子

【天位】

酔い覚めに形容動詞ふりかける

石橋芳山

形容動詞といえ、きれいだ、上品だ、しあわせだ、しずかだ、などがあるが、私の「酔い覚め」には「ばかだ」がいつぱいふりかけられていた。

参加者募集

川柳吟行会「ぽ」

課題『窓』

今月は20名参加。投句数は60句だった。この原稿
 を書いている2月中旬、青森県内の新型コロナウイ
 ルスの新規感染者数に減少傾向はまだ見られず合
 評会は見送ることになった。各々が感じたままの選
 と評である。バラツキもあまりなく「読み」と「詠
 み」が両輪となつてゆつくり遠くへ走っているよう
 に感じた。

使いこなせない・嫌われる・窓だった・ふさがれ
 ていく・なりたい「窓」。これでもかというくらい
 人間味の溢れる多くの「窓」に出会えた。

事務局を引き受けてくれている冬鼓さんには投
 句も選も評も集まってくる。その中で作句し選をし
 評をするのは相当難儀なこと。感謝。(啓子)

【9点】特×2・佳×5
胸ポケットに使いこなせぬ窓がある 熊谷冬鼓

【ふぶき】胸ポケットに入っているのはスマホだろうか、
 それとも解けない難問なのだろうか。やっかいだけれど
 身近にあるものの発想が面白い。【隆志】この窓にはい
 るんなことがこめられている。体力、知能であり、愛情
 も含め、五感の全てである。【啓子】開けるときに開け
 なかつたり締める時に締めなかつたり。難しい。【彰子】
 器用に使いこなせる人ばかりだったら……うそ寒い。【吉
 見恵子】人それぞれに悩みの窓がありますね。この窓は
 才能の窓なのかも。【紫の園】使えるのに上手く使いこ
 なせないものがあり、心残りか諦めのような気持が「窓」
 として表現したことに惹かれました。【こあき】心の窓
 は開け加減がムスカシイ。

【8点】特×2・佳×4
窓全開だから私は嫌われる 達毘古

【啓子】開けているように見せて開けてない人は賢い。ほんとうに私もいつも全開。そか、だから嫌われるんだあゝガッテン！！(汗)【朱美】まるで私のような人だ。自分をさらけだして、あっけらかんと生きている。好きな人もだれか一人いるよ。【こあき】正直でいい人だけでは。かな。【旅男】本当ですか？全開ですか？酔っぱらって知らずに開けた窓はありませんか？【ふぶき】あからさますぎるとかえって引かれる、全開の窓というあっけらかんとした表現が面白い。【隆志】ここまで自分をさらけだした句はみごと。

【6点】特×2・佳×2

窓だっただことも忘れたおかあさん 守田啓子

【規子】私にとって母はまさに色んな新しい事に出会わせてくれた窓。そんな母にも老いはやって来る。残り時間を大事にしたい。近未来の一句に思えてならない。【さち】私は母が天窓だったのにずうっと気づかなかったことを悔いています。「も」は「を」の方がよかったのではと思います。【吉見恵子】母を通してみていた人生の窓。時にはお手本だった母も自然現象には……。【隆志】老いた母のことを想う子の気持が伝わる。

【文音】昔ヒッチコックの裏窓という映画を見た。二番目の窓の不眠症を知っているあなたも不眠症ですか。

【4点】佳×4

閉め切った窓をいくつも持っている 渡邊こあき

【彰子】この窓誰もがついているだろうと納得しました。【旅男】皆さん同じじゃないでしょうか。アッチに開いてコッチに閉まる窓。【ふぶき】誰もが持っているものだと思うが、ちゃんと意識しているところがいい。【さち】死ぬまで鍵をかけておいた方がいい窓を三つ持っています。

【3点】特×1・佳×1

ラーメンに卵を一ツ窓の湯気 福田文音

【吉見恵子】屈託のないささやかな幸せを描いている。ほやほやの湯気が見えるよう。【朱美】力の抜けたような句である。すつと入ってきた。

前例がないと断る二重窓

宮井いずみ

【こあき】なんとか例外をとお願ひしても二重窓に冷たく阻まれる。【冬鼓】「前例がない」の言葉の裏に舌打ちが、二重窓には壁を感じる。

【5点】特×1・佳×3

窓すべてふさがれていくウクライナ 滋野さち

【与生】窓を塞いだ後のウクライナはどうなるのか。「首吊り台」の句を逆からみた風景ともいえる。窓は民主的なものなのだあと実感。【啓子】世界情勢には疎いが、うまい表現だと思った。【いずみ】ウクライナの情勢が「窓すべて塞がれる」できつちり表現されている。【冬鼓】蛇ににらまれた蛙のよう。ぞわぞわ感が伝わる。

【4点】特×1・佳×2

あたしはもう雪見障子になりたいわ 守田啓子

【冬鼓】会話調で、ぴしゃりと突き放した表現が斬新。とは言え雪見障子ですから優しい光で見守るのでしよう。【与生】雪見障子という半透明人間のものになりたい。【達毘古】「怒」ですね。でも僕はなつて頂きたい。

左から二番目の窓が不眠症

小野五郎

【彰子】左から二番目と特定したところに確固たる作者の意思を感じます。じゃあ他の窓は爆睡ですか？腹立たしや。【柳本恵子】たくさん並んでる窓の1つが夜眠れないのは、受験生？恋の悩み？妄想が止まらないですね。

春を呼ぶ窓口どこにありますか

渡邊こあき

【柳本恵子】春を呼ぶ窓口、市役所の南館の奥の雪解けの階で。なあんてね。窓口っていう発想が素晴らしいです。【達毘古】僕も探しますが見つかりません。

【3点】佳×3

ちよつとらぐがき結露の窓を笑わせる 宮井いずみ

【柳本恵子】結露の窓に指で落書きしたなあ。きつと笑いながら流れてゆく水滴なんだろう。【州花】結露の窓にはちよつと何かをしたくなる。【夢香】かわいらしい落書きでしょうね。

【2点】特×1

電球に靴下窓から見えた母 滋野さち

【旅男】奇抜です。電球が眩しいのか、靴下を乾かすのか？裸電球は昭和を感じます。母の独り住まいでしょうね。

リンダリンダ窓開けたっていいんだよ

月波与生

【いずみ】リンダリンダとだけ繰り返すだけでやけに主張のあった曲と「窓開けたっていい」という措辞が響き合っている。

売れ残りの月が置かれた飾り窓 夏草ぶぶき

【夢香】 一幅の絵画を観ているような・・・。

原油高騰ツララは鬼の爪である 熊谷冬鼓

【州花】 美しくて透明で鬼の爪はかくなるものでありましか。たか。

首吊り台から見る窓のない家 月波与生

【五郎】 読み手に有無を言わず、いきなり不条理劇の真っ只中に放り込んでしまう。

裏窓の景色は同じひとりになった 吉田州花

【達毘古】 家族がいなくなったら表の窓から見る景色はすぐ変わる。自動車自転車など。変わらぬ裏窓もさみしいですね。

窓の雪ゲンジボタルの影法師 笹田隆志

【紫の園】 ふと見た窓の雪に映っている影法師が、ゲンジボタルだと思った幻想的な風景が、雪のもつ幻想と相まって、大変よい句に仕上がっています。

十和田たてがみ川柳会二月（誌上）句会

【参加者】 磯島雅男・漆館ミノリ・木村奈生美・熊谷冬鼓・斉藤蛙井・佐藤まさあき・城後朱美・瀧尻善英・中村英三・福田芳記・村上昌子・守田啓子・高田幸柳

■課題 『カレー』 高田 幸柳 選

【平抜き】

カレー粉を野菜炒めにそっと入れ	漆館ミノリ
気に入ったシャツにこぼしたカレー跡	中村 英三
カレーとは長年馴染んだ四畳半	斉藤 蛙井
中辛があるのイに混ぜる辛と甘	福田 芳記
兄さんの笑顔ひきつる激カレー	村上 昌子
お向かいもカレーのような路地の風	佐藤まさあき
挑戦のたびに頂くカツカレー	磯島 雅男
失意日も美味しい母のカレー鍋	木村奈生美
メモ書きを一つづつ消すカレーの日	守田 啓子
コトコトと母のカレーが仕上げ待つ	佐藤まさあき
母さんの甘酸辛苦煮込むカレー	中村 英三
言い張った後のカレーの味が無い	熊谷 冬鼓
金曜日ママのカレーが待つ香り	瀧尻 善英

窓閉めてひとりで開ける福袋 夏草ぶぶき

【文音】 窓を閉める動作と福袋を開ける動作が絶妙。ひとりのドラマを見せています。

【2点】佳×2 吹雪く夜のひとりに一つ窓明かり 吉見恵子

【与生】 「ひとりに一つ」は平等な感じもするがそもそも吹雪かかっている状況が不平等なわけで。メルヘンの残酷さ。【紫の園】 吹雪く夜は自分の部屋で二人ジッと耐え、窓の明かりがもれている。吹雪く夜の激しいなかの淡い明るさがでていると感じました。

弟の窓はパタンと次の世へ 吉田州花

【文音】 魂が遊離して姉の窓にパタンとお別れを。肉親だけの愛しい別れを感じました。【さち】 たまには風に乗って窓を開けに来るでしょう。

※1点句は誌面の都合上、割愛いたします。

カレー煮る肉と野菜が持つ本音	木村奈生美
悪くないカレーライスの芋の役	守田 啓子
【秀逸】	
スプーン音だけで孤食のカレー皿	瀧尻 善英
被災地のカレーが何故か甘すぎる	城後 朱美
【特選】	
激辛のカレーに崩壊した理性	瀧尻 善英

■課題 『カーブ』 木村奈生美 選

【平抜き】

真っ直ぐでいたい心がカーブする	村上 昌子
急カーブ事に背骨が右左	磯島 雅男
曲がったら見えないものが見えました	斉藤 蛙井
丸見えのカーブミラーに感謝状	磯島 雅男
信念を曲げて生きやすさを選ぶ	瀧尻 善英
教習所S字カーブで落とされた	福田 芳記
曲線美魅せるドラフト車庫入れる	磯島 雅男
反りに美を求め名工剣を研ぐ	瀧尻 善英
陶磁器はカーブが命匠の手	中村 英三
初心者だなゆっくり曲がる右カーブ	城後 朱美
初心者泣かす下りのつづら折り	福田 芳記
春うららゆるいカーブで起きた事故	城後 朱美

□ 2022.05.22 筒井祥文追悼「らくだ忌」第1回川柳大会

【とき】2022年5月22日(日)午前10時開場 出句締切午前11時30分【ところ】ラポール京都(京都労働者総合会館)2階大ホール 阪急京都線・西院駅より徒歩約7分 〒604-8854 京都府京都市中京区壬生仙念町30-2 TEL.075-801-5311【開会】午後1時【兼題】「芸」きゅういち選(茨木)「ジャズ」蟹口和枝選(京都)「水」兵頭全郎選(高槻)「自転車」森田律子選(京都)「笑」井上一筒(大阪)「蓋」樋口由紀子選(姫路)謝選「亀」1句出し くんじろう選(大阪) ※各題2句出し・謝選のみ1句出し 各題に秀句賞【会費】当日・欠席投句共2,000円 定額小為替・現金 ※切手不可 発表誌呈 ※すでに欠席投句をお預かりしている方は大会当日、受付にお申し出ください。■欠席投句宛先 〒567-0057 大阪府茨木市豊川1-17-6 「らくだ忌川柳大会」欠席投句 森茂俊宛 ■欠席投句締切 令和4年4月30日必着 投句料同封の上、A4用紙(紙質自由)に簡条書き楷書あるいはパソコン(ワープロ)打ち可能・その際連絡先お名前(雅号)住所・電話番号・メールアドレス(お持ちの方)を忘れずにお書き入れください。■懇親会 5,000円 定員40名・先着順 午後5時~(四条「天狗」会場へは係員がご案内致します) ■お問い合わせは 「らくだ忌」川柳大会実行委員会事務局 〒546-0043 大阪市東住吉区駒川1-10-22 長屋ぎやらりい・くんじろう内 TEL090-5125-7905 kunjiro-t@ezweb.ne.jp

□ 2022.05.31 ✕ 「不浪人賞・年度賞」候補句募集

第64回「不浪人賞」・第52回「年度賞」【応募資格】青森県在住者【応募料】青森県川柳連盟加入吟社に所属している方は無料。無所属の方、また連盟だより(結果)の個人送付希望者はその旨明記のうえ百円切手を同封ください。【対象作品】2021年1月~12月に発表された作品。「不浪人賞」・「年度賞」のどちらか、または両方の応募可(2賞への同一句の応募は不可)【応募用紙】所定用紙またはA4の用紙を使用し、楷書で不浪人賞(3句)、年度賞(5句)を分け、それぞれに住所、氏名、電話番号を記入ください(清記選)【締切】2022年5月31日(当日消印有効)【発表】大賞の速報を各柳誌に掲載。結果詳細は「青森県川柳連盟だより」にて。なお、連盟だよりの送付ですが、基本的に所属吟社に一括送付致しますので応募の際は所属吟社記入のこと。【表彰】2022年9月23日(祝)川柳忌黒石川柳大会にて(予定) *各賞1位に賞状と記念品【送り先】〒038-3288 つがる市木造出来島33 青森県川柳連盟「不浪人賞・年度賞」係宛【選者】★不浪人賞(6名) 渡辺梢(埼玉)・赤松ますみ(大阪)・鎌田京子(宮城)・新家完司(鳥取)・島田駱舟(千葉)・野沢省悟(青森)★年度賞(10名) 長谷川酔月(秋田)・熊谷岳朗(岩手)・雫石隆子(宮城)・山口まもる(山形)・小林左登流(福島)・千島鉄男・むさし・工藤青夏・笹田かなえ・田鎖晴天【連絡先】青森県川柳連盟事務局 濱山哲也 ☎080-5574-9297【主催】青森県川柳連盟

■課題 『数える』 瀧尻 善英 選
 【平抜き】
 削除する友達の数星の数
 念入りに答案数える試験官
 人数を確かめ発車ツアーバス
 10までならすらすら言えるケアハウス
 明日という幸を数えて寝る安堵
 足し算に孫の十指が活躍す
 天井の節穴数え明日想う
 何匹目からが羊の眠りかな
 自分史に反省数が多過ぎる
 反比例してゆく脳と顔のしわ
 自分でも数える分の金でよし

守田 啓子
 福田 芳記
 佐藤まさあき
 城後 朱美
 木村奈生美
 佐藤まさあき
 齊藤 蛙井
 磯島 雅男
 木村奈生美
 村上 昌子
 漆館ミノリ

気にかかる年頃肌の曲がり角
 真つすぐで曲がらない線ならワタシ
 人生の逆坂もカーブも越えた皺
 【秀逸】
 分別がブレーキばかり踏みたがる
 あのカーブ曲がれば自分らしくなる
 【特選】
 手触りのいい曲線だ母さんだ

高田 幸柳
 守田 啓子
 佐藤まさあき
 熊谷 冬鼓
 城後 朱美
 守田 啓子

【十和田たてがみ川柳会4月例会案内】
 【時】4月16日(土) 午前10時から 【所】十和田労働福祉会館 【宿題】(各題三句詠)『くつきり』村上昌子選『くねくね』佐藤まさあき選 【互選】(一句詠)『鎖』当日出席者のみ(句せんの裏に雅号記入) 【席題】一題(三句詠・共撰) / 選者は、瀧尻善英ほか出席者から一名 【投句先】〒034-0212 十和田市米田字桜平72 高田幸柳宛
 ※なお、誌上句会になった際は別途、連絡(会員ののみ)します。また、誌上句会の互選は三句詠となり瀧尻善英選となります

家計簿に嫌われている手数料
 たら・ればと星を数えてばかりいる
 あと三つ溜息すれば楽になる
 【秀逸】
 皿屋敷一枚二枚なお怖い
 貯めた金そつと数えてほくそ笑む
 【特選】
 振り向けば数えきれない悔いの跡

木村奈生美
 熊谷 冬鼓
 高田 幸柳
 福田 芳記
 中村 英三
 高田 幸柳

■会費拝受【2月受付分】 ※太字は新会員

真島久美子(佐賀県)/ 四ツ屋いずみ(北海道)/ 村井隆行(滋賀県)/ 上村夢香(山口県)/ さいとうみき(弘前市) ■ご芳志ありがとうございます 真島久美子様

■おかげょうき川柳社会員募集中!

会員ならびに当誌購読希望の方は、下記の口座までお振り込み下さい。

→郵便振替 No.02280-6-43112 口座名:おかげょうき川柳社

→会費:6,000円(1年分)

おかげょうき川柳社 お問い合わせ先

●投句以外のことについてはこちらへ●

熊谷冬鼓 toko@okajoki.com FAX.017-752-3759

終着駅 Sin

◆9年ぶりの超豪雪だった青森にも、まだ肌寒く感じる風ではあるが、春の匂いが届くようになった。弘前城のさくらまつりも夏のねぶた祭りも、元の形ではないにせよ開催される方向らしい。実際、感染者数から言えば、中止していた頃より現在のほうが圧倒的に多いのだが、ワクチン接種による致死率の低さや、感染した人への誹謗中傷が少なくなったことが、イベント実施の決断がしやすくなったというところだろう◆そして、おかげょうき川柳社も数年ぶりに「川柳ステーション2022」の開催を決めた。まだ細部まで詰めたわけではないが、ちょっとずつ何かを取り戻しながら、大会を新調していければと思う。とはいえ、地元を選者ばかりでは、句会となんら変わらない雰囲気もあるので、なかはられいこさんに、「リ

モート出演で披露して」と頼んだら、快く引き受けてくれた。ただ披露だけだと味気ないので、何かしら企画を考えたいと思っている。「ねじまき vs おかげょうき」みたいな勝負事だと盛り上がりそう(笑)◆こんな風に、リモートでの出演なら、旅費がかからないので、全員、選者を県外の人にするってのもなんか昔の「ズームイン朝!」みたいな列島中継みたいで楽しそうだ(笑)◆「それではつづいて、愛媛の吉松澄子さん」「はい、吉松です。いま、私は松山城にきています。現在、松山市は気温が25度ほどですが、先ほどから雨がパラついてきました。」「生憎の雨ですねー。ではその松山城から披露をお願いします」「わかりました」なんて、やり取りがある川柳大会、一度観たくないですか?(笑)◆Sin

おかげょうき川柳社 作品募集案内

□ 2022.04.13 「川柳吟行会 ぼ」4月句会

【投句締切】4月13日(第2水曜日)【題・投句数】『風』3句【合評会】4月20日(第3水曜日)アウガ5階で14:30~予定【投句先】toko@okajoki.com 熊谷冬鼓宛 *それぞれの地で一人吟行して作句し投句願います。参加者全員による選・選評をメールで交換。選評等は後日月刊おかげょうきに掲載。メール交換できる方なら会員以外でも参加可。

□ 2022.04.20 おかげょうき会員雑詠集「無人駅」5句(6月号分)

【締切】4月20日15時必着【提出】雑詠5句、お気に入り1句(最新号からお好きな作品1句とそれに対する簡単なコメントも記入)【掲載】6/10発行号【ウェブサイトからの投句】http://www.okajoki.com/toku/mujineki.html【メールでの投句】moriko@okajoki.com 守田啓子宛

□ 2022.05.07 おかげょうき川柳社本社5月句会

【時】5月7日(土)午後1時~【所】アウガ5階小会議室【投句締切】5月6日(金)15時【宿題】(各題3句詠)『モード』/『門』/『自由詠』【席題】1題3句詠・2人共選。選者は当日の参加者より選出【川柳ラボ】互選句「母に関する句」1句【ウェブサイトからの投句】http://www.okajoki.com/toku/【メールで直接送信投句】moriko@okajoki.com(守田啓子) ■句会参加の際は新型コロナ感染対策に協力願います。

□ 2022.05.20 おかげょうき会員雑詠集「無人駅」5句(7月号分)

【締切】5月20日15時必着【提出】雑詠5句、お気に入り1句(最新号からお好きな作品1句とそれに対する簡単なコメントも記入)【掲載】7/10発行号【ウェブサイトからの投句】http://www.okajoki.com/toku/mujineki.html【メールでの投句】moriko@okajoki.com 守田啓子宛



おかじょうき川柳社：誌上句会

0 番線

- OKAJOKI ZERO LINE -

課題と選者 (2句詠・共選)

題：『動』

7/31 〆切

選者

ひとり静 (奈良県)

むさし (青森県)

投句方法

※誠に申し訳ありませんが、郵送・FAXでの応募は受け付けておりません。

【ウェブサイトからの応募】

<http://okajoki.com/toku/0line.html> へアクセスし、作品応募フォームから必要事項を記入して送信してください。



【メールで直接送信する場合】

メール本文内に「作品(2句まで)」「郵便番号」「住所」「氏名または雅号(ふりがな)」「電話番号」を明記し、件名に「0番線」として、**守田啓子宛**にメール送信してください。＜送信先アドレス：**moriko@okajoki.com**＞

投句料 (※おかじょうき川柳社会員は無料です。)

1,000円 (発表誌呈) *発表誌の送付をもって、投句料受領したものとさせていただきます。

◆振込先：郵便振替 No.02280-6-43112 口座名 おかじょうき川柳社

賞

特選の方に青森県特産品を贈呈。